

赴任前に知っておきたい異文化対処法

日外協の海外赴任前セミナーでは、オプション講座「赴任前に知っておきたい～異なった文化への備え」を実施している。赴任先でのトラブルを防ぐにはどうしたらいいか。講義の一部を紹介したい。

リロ・パナソニックエクセルインターナショナル株式会社

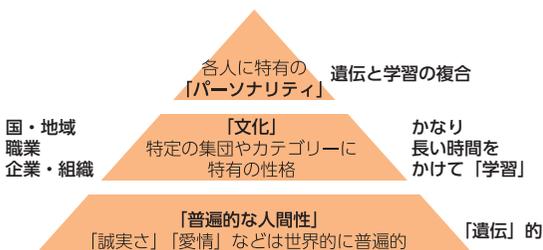
顧問 中村好伸

文化に違いはあっても優劣はない

皆さんは文化という言葉はよくご存知ですし、よく使っていることでしょう。でも文化とは何かを説明しろと言われたらどうしますか？ 広辞苑には「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ科学・技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成の様式と内容とを含む」と書かれています。このグローバル化の時代に異なった文化の人々とどのようにお付き合いするのが異文化対応です。

オランダの学者ホフステードによれば、文化というのは図の通り人間のメンタル・プログラミングだと言われています。普遍的な人間性の上に小さい時からかなり長い時間をかけて「学習」した、国や地域・職業・特定集団やカテゴリーに特有の性格を「文化」と彼は定義付けをしています。したがって国や地域ばかりでなく、組織・会社にも文化というものが存在します。ただし、ここで注意しなければいけないのは、文化に優劣を持ち込むと問題が起こることがあるということです。好き嫌いはあるかもしれませんが、文化が優れている、

図 人間のメンタル・プログラミング
～ホフステードによる文化の位置付け



出所：「多文化世界 違いを学び共存への道を探る」より筆者作成

劣っているということは決してありません。まず文化に違いがあることを認識し、その上で優劣はないのだということをしっかり理解する。そして一番大事なことは、遺伝と学習が複合化された結果とも言うべき各自に特有の「パーソナリティ」、結局は個人の人間性というところに帰着するのだということです。

文化というものはシンボル、ヒーロー、儀礼とかたちで表面に出てきますが、実は中心にあるのはそのグループのもつ価値観です。一番変化しにくいものが価値観であり、したがってその集団が持つ価値観を学ぶことが異文化交流の有効な手段になるのです。

アメリカへの憧れと異文化体験

私の初めての異文化体験は、アメリカへの憧れから始まりました。子どもの頃、近所にアメリカ人が住んでいて、庭にはブランコがあり、遊んだ後によく HERSHEY'S のキスチョコや漫画の入ったピンク色の風船ガムをもらってうれしかったことを覚えています。自分の生活とのあまりの違いに、アメリカへ行って住んでみたいというアメリカやアメリカ人の生活への憧れがこの頃に芽生えました。そして、学生時代にアメリカへ行くチャンスをつかむことができました。

初めてのアメリカ体験は素晴らしいものでした。サンフランシスコ郊外のマウンテンビューという町で1カ月過ごした思い出は忘れられません。中にはプール付きの家に住んでいる家庭があるなど、日本からは想像できない生活レベルがあることにも気付かされました。このアメリカ体験